

国際医療福祉大学成田病院改革プラン（令和6～11年度版）

取組項目	令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度		令和11年度		
	計画	評価	計画	評価	計画	評価	計画	評価	計画	評価	計画	評価	
①自院の役割・機能の再確認													
1) 医学部の教育・研究に必要な附属施設としての役割・機能	<ul style="list-style-type: none"> 研究を支援する部署として本学部「未来研究支援センター」分室が院内に存在するが、一層の機能強化を進める。 病院勤務の医学部教員が基礎研究を行える環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「未来研究支援センター」分室の利用促進のために、教職員への積極的な周知を行い、支援件数を把握する。 令和8年度に敷設される薬学部棟内に動物実験が可能な基礎実験設備を整える。 	研究支援センターによる研究支援相談会を毎月開催している。 継続中	<ul style="list-style-type: none"> バイオバンクをはじめとした診療科横断的な基礎研究基盤を整備する。 令和8年度に敷設される薬学部棟内に動物実験が可能な基礎実験設備を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> 各診療科の専門研修と大学院進学に関するモデルコースを整備する。 			<ul style="list-style-type: none"> 本学1期生が基礎領域の専門資格を取得する年度であり、レジデントから学生医師までの屋根瓦式教育体制を各診療科で再整備する。 				
2) 専門性の高い高度な医療人を養成する研修機関としての役割・機能	<ul style="list-style-type: none"> 専攻医養成のための研修プログラムを拡充する。 	<ul style="list-style-type: none"> 専攻医養成のための研修プログラムを全領域の診療領域に拡充する。 当院の研修プログラムの魅力を広報する戦略を確立する。 	総合診療、検査、形成外科が未整備	<ul style="list-style-type: none"> サブスペシャリティ領域の整備方針を決定し、未設置のプログラムについては申請までのタイムテーブルを作成する。 		<ul style="list-style-type: none"> 設置要件を満たせないサブスペシャリティ領域を除き、整備方針・計画を完全に実行する。 		<ul style="list-style-type: none"> 新たなサブスペシャリティ領域の設置に応じて当院での整備の有無および設置計画の整備を定期的および計画的に行う（次年度以降も同様） 					
3) 医学研究の中核としての役割・機能	<ul style="list-style-type: none"> 診療報酬の利活用を支援し、促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本院が中心となって、グループ病院間の症例データ等を有機的に集約し利活用できる仕組みを整備する。 他学部や他種連携研究を推進する。 	継続して計画を整備中。	前年度の計画の進捗を確認し、充実を図る。		前年度の計画の進捗を確認し、充実を図る。		前年度の計画の進捗を確認し、充実を図る。		前年度の計画の進捗を確認し、充実を図る。		前年度の計画の進捗を確認し、充実を図る。	
4) 医療計画及び地域医療構想等と整合した医療機関としての役割・機能	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズに合った急性期医療を実施するべく、関連組織との協議体を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体（成田市、千葉県）との定期的な会合により、有機的な連携を進める。 地域医師会等と定期的な会合を設け、地域のニーズに合った医療を提供する体制を整備する。 	成田市・国際医療福祉大学 地域連携推進協議会開催 #令和6年8月5日	<ul style="list-style-type: none"> 自治体（成田市、千葉県）との定期的な会合により、有機的な連携を進める。 地域医師会等と定期的な会合を設け、地域のニーズに合った医療を提供する体制を整備する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自治体（成田市、千葉県）との定期的な会合により、有機的な連携を進める。 地域医師会等と定期的な会合を設け、地域のニーズに合った医療を提供する体制を整備する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自治体（成田市、千葉県）との定期的な会合により、有機的な連携を進める。 地域医師会等と定期的な会合を設け、地域のニーズに合った医療を提供する体制を整備する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自治体（成田市、千葉県）との定期的な会合により、有機的な連携を進める。 地域医師会等と定期的な会合を設け、地域のニーズに合った医療を提供する体制を整備する。 		<ul style="list-style-type: none"> 自治体（成田市、千葉県）との定期的な会合により、有機的な連携を進める。 地域医師会等と定期的な会合を設け、地域のニーズに合った医療を提供する体制を整備する。 	
5) その他自院の果たすべき役割・機能	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究を推進し、成果を積極的に社会に公表する。 アジア諸国への国際貢献を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学会発表や論文発表の数・質のレベルアップを図るべく支援していく。 本院が実施している先端医療についてホームページ等で公開する。 日本の高精度な検診know-howをベトナムなどアジア諸国に啓発していくため、現地での事業展開及び研修の受け入れを行う。 	臨床研究に関する情報公表、NCDデータベース事業を公開している 論文発表数など優秀には、表彰を行うことを7年度から実施予定 アジア諸国から、延べ109名の実習生を受け入れた。	前年度を評価し、さらに充実を図る。		前年度を評価し、さらに充実を図る。		前年度を評価し、さらに充実を図る。		前年度を評価し、さらに充実を図る。		前年度を評価し、さらに充実を図る。	
②病院長のマネジメント機能の強化													
1) マネジメント体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 病院長中心のガバナンスを構築する。 ガバナンスの仕組みを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定機能病院承認を目指す過程において、要件とされている病院長中心のガバナンスの仕組みを明文化する。 課題抽出と意志決定プロセスを組織図として明確化する。 意志伝達システムを整備する。 	必要に応じて規程の改正等を実施する。	仕組みの検証を行い、必要に応じ見直しを行う。		仕組みの検証を行い、必要に応じ見直しを行う。							
2) 診療科等における人員配置の適正化等を通じた業務の平準化	<ul style="list-style-type: none"> 客観的な業務評価に基づく人事・就労管理を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外就労時間、診療実績、教育・研究実績を統合的に分析する方法を確立する。 地域や自治体との協議や、診療ニーズ調査を行い適正な人事配置法を検討する。 	自治体や医師会との情報交換により、分析手法並びに適正な人事配置方法の検討を行った。	前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。	
3) 病床の在り方をはじめとした事業規模の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 本院は開院以来、フルオープンを目指して順調に事業規模を拡大してきているが、引き続き多面的視点を持って事業規模を拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「経営タスクフォース会議」を執行部会の下に置いて経営、教育、医療安全などの多角的視点をもとに事業規模を検討する。 フルオープンに向けた増床計画を策定する。 	毎月の収支分析を病院長始め幹部で協議検討をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 「経営タスクフォース会議」で検討したことを実証し、効果を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 「経営タスクフォース会議」で検討したことを実証し、効果を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 「経営タスクフォース会議」で検討したことを実証し、効果を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 「経営タスクフォース会議」で検討したことを実証し、効果を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 「経営タスクフォース会議」で検討したことを実証し、効果を確認する。 	
4) マネジメント機能の強化に資する運営に係るICTやDX等の活用	<ul style="list-style-type: none"> 病院業務の様々な領域にデジタル管理システムの整備を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> 文書管理システムを導入し、同意書、返書、サマリー等の標準化を行うとともに、紙媒体を限りなくなくす。 医療機器管理システムを導入し、医療安全に資する医療機器管理を実現させる。 	文書管理システムについて7年度導入に向けて準備中である。 医療機器管理システムは導入したが、完全稼働は次年度予定	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器管理システムを用いて機器のトラブル・不具合対応をデータ管理する。収集したデータを基に、トラブルの多い機器を中心に基に事例検討を行い、臨床現場に合わせた安全な運用を構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の計画を継続し、安全な医療機器の運用をより構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> 令和8年度の計画を継続し、安全な医療機器の運用をより構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> 令和9年度の計画を継続し、安全な医療機器の運用をより構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> 令和10年度の計画を継続し、安全な医療機器の運用をより構築する。 	
③大学等本部、医学部等関係部署との連携体制の強化													
・大学本部とは管理運営会議、医学部とは医学部運営会議が常設されているが、より機能的な協議体を検討する。	・毎月あるいはオンデマンドで学長・医学部長・附属病院長の3者会議を設ける。	継続検討中	前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		
④人材の確保と待遇改善													
・評価基準を策定し、客観的評価に基づいた人事考課を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 職員の職位や実績を適切に評価できる仕組みを整備し、より適切な処遇を整備する。 関連団体、グループ病院と連携して人材の適正配置を行う。 	年2回の人事考課実施により、昇格・職階変更への適切な反映、人材の適正配置を実施した。	前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		前年度計画の評価結果をもとにさらに充実したものとする。		
⑤その他の運営改革に資する取組等													
・病院機能評価による客観的評価を基に改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 病院機能評価（一般病院3）受審（R5年度）の際の指摘事項を改善する。 特定機能病院の指定要件を維持し、更に機能を高めるべく取り組む。 	病院機能評価については、認証を受けることができた。	<ul style="list-style-type: none"> 診療の質向上等を図るためPDCAサイクルを活用し病院機能を充実させる。 特定機能病院の申請および機能の維持を継続する。 		<ul style="list-style-type: none"> 診療の質向上等を図るためPDCAサイクルを活用し病院機能を充実させる。 特定機能病院としての機能の維持を継続する。 		<ul style="list-style-type: none"> 診療の質向上等を図るためPDCAサイクルを活用し病院機能を充実させる。 特定機能病院としての機能の維持を継続する。 		<ul style="list-style-type: none"> 診療の質向上等を図るためPDCAサイクルを活用し病院機能を充実させる。 特定機能病院としての機能の維持を継続する。 		<ul style="list-style-type: none"> 診療の質向上等を図るためPDCAサイクルを活用し病院機能を充実させる。（病院機能評価更新年） 特定機能病院としての機能の維持を継続する。 		

①臨床実習に係る臨床実習協力機関との役割分担と連携の強化																
・グループ病院及び地域の医療施設との連携を行い、毎月、研修状況について管理する遠隔会議を機能させる。		令和8年度から開始される新カリキュラム下の臨床実習計画を具体化する中で、地域の医療機関との連携を具体的に計画する。	令和8年度より実施できるよう調整中	令和8年度からのカリキュラム改編のスムーズな移行のために一部先取りでの取り組みを開始する。	医学部のカリキュラム改変にあわせて新規臨床実習体制に移行する。	移行フェーズを終了させる。	新カリキュラム下の学生教育の結果を解析し、必要な修正案を作成する。	新たな修正を行う。								
②臨床研修や専門研修等に係る研修プログラムの充実																
<p>・専攻医養成のための研修プログラムを拡充する。</p> <p>・診療参加型臨床実習の充実を図る。</p> <p>特に、手術間連教育において、3D医用画像処理ワークステーション及び術中3D画像ナビゲーションを導入し実際の診療に即した外科「知識」の習得機会を拡充し、また、参加手術に連携した手術支援ロボットによる手術手技実習および評価方法を確立する。</p>																
③企業等や他分野との共同研究等の推進																
<p>・他機関・多職種連携による研究を推進する。</p> <p>・企業協力して病理・画像診断におけるデジタル診断機能を拡充し、グループ病院間の診療連携を進めるとともに臨床研究を発展させる。</p> <p>・グループ病院の匿名化された検診データを用いた研究を推進する。</p>																
教育・研究改革	④教育・研究を推進するための体制整備															
	1) 人的・物的支援		・研究の支援・管理体制の人的・物的支援整備を拡充する。	・研究を審査・管理する倫理委員会（千葉地区）と研究を支援する未来研究支援センター（分室）、治験を管理する治験管理室に係る人材を拡充する。	治験管理部の人材の拡充として1名増員実施。	前年度計画を評価結果をもとにさらに充実させる。	前年度計画を評価結果をもとにさらに充実させる。	前年度計画を評価結果をもとにさらに充実させる。	前年度計画を評価結果をもとにさらに充実させる。	前年度計画を評価結果をもとにさらに充実させる。	前年度計画を評価結果をもとにさらに充実させる。	前年度計画を評価結果をもとにさらに充実させる。				
2) 制度の整備と活用		・研究の支援・管理体制の整備を拡充し、活用する。	・制度の整備を拡充し、体制整備の充実を図る。	治験管理部における人員増加により、治験運営の質的課題の対応に向けた事務・バックヤード業務体制の充実を図った。	・制度の整備を拡充し、体制整備の充実を図る。	・制度の整備を拡充し、体制整備の充実を図る。	・制度の整備を拡充し、体制整備の充実を図る。	・制度の整備を拡充し、体制整備の充実を図る。	・制度の整備を拡充し、体制整備の充実を図る。	・制度の整備を拡充し、体制整備の充実を図る。	・制度の整備を拡充し、体制整備の充実を図る。	・制度の整備を拡充し、体制整備の充実を図る。				
⑤その他教育・研究環境の充実に資する支援策																
<p>・電子カルテ内の患者情報等を研究者が利活用する際に、匿名化するシステムを導入している。今後強化していく個人情報関連法案に対応する。</p> <p>・各種補助事業を活用し、高度医療人材の養成に取り組む。</p>																
⑥都道府県等との連携の強化	①都道府県等との連携の強化															
	<p>・自治体（成田市、千葉県）との定期的な会合により、有機的な連携を進める。</p> <p>・千葉県医療審議会の進める地域医療計画等を執行部会で情報共有する。</p>		・地元自治体（成田市、千葉県）との定期的な会合を実施し、地域における医療提供体制の課題や今後の取組について意見交換を行い、地域医療体制を充実させるべく連携する。	令和6年度（hinotori） 3 1件（肝胆膵7、大腸13、呼吸器9、泌尿器2） 操作研修受講者数 肝胆膵6名、大腸4名、呼吸器4名、泌尿器2名（助手3名） 7年度に小児外科1名予定	計画については、実施できており、継続とする。	・電子カルテ内の情報提供は、個人情報を含む情報提供の場合は、診療録管理委員会で審議を必須とする。データはパスワードをかけて電子カルテ端末内へ入れ、データを取り出す場合は当院の貸出USBを使用して、情報システム室が匿名化し、個人情報がないことを確認し、情報提供をする。	前年度（肝胆膵7、大腸13、呼吸器9、泌尿器2） 操作研修受講者数 肝胆膵6名、大腸4名、呼吸器4名、泌尿器2名（助手3名） 7年度に小児外科1名予定	10月現在 33件（肝胆膵8、大腸12、呼吸器13）	・電子カルテ内の情報提供は、個人情報を含む情報提供の場合は、診療録管理委員会で審議を必須とする。データはパスワードをかけて電子カルテ端末内へ入れ、データを取り出す場合は当院の貸出USBを使用して、情報システム室が匿名化し、個人情報がないことを確認し、情報提供をする。	10月現在 33件（肝胆膵8、大腸12、呼吸器13）	・電子カルテ内の情報提供は、個人情報を含む情報提供の場合は、診療録管理委員会で審議を必須とする。データはパスワードをかけて電子カルテ端末内へ入れ、データを取り出す場合は当院の貸出USBを使用して、情報システム室が匿名化し、個人情報がないことを確認し、情報提供をする。	10月現在 33件（肝胆膵8、大腸12、呼吸器13）	・電子カルテ内の情報提供は、個人情報を含む情報提供の場合は、診療録管理委員会で審議を必須とする。データはパスワードをかけて電子カルテ端末内へ入れ、データを取り出す場合は当院の貸出USBを使用して、情報システム室が匿名化し、個人情報がないことを確認し、情報提供をする。	10月現在 33件（肝胆膵8、大腸12、呼吸器13）		
⑦診療改革	②地域医療機関等との連携の強化															
	<p>・地域医師会等と定期的な会合を設け、地域のニーズに合った医療を提供していく体制を整備する。</p> <p>・市民啓発のための市民公開講座を開催すると共に、登録施設制度や交流の場を設ける。</p>		・地元医師会、医師団等との定期的な会合を実施し、地域における医療提供体制の課題や今後の取組について意見交換を行い、地域医療体制を充実させるべく連携する。	成田市・国際医療福祉大学 地域連携推進協議会開催 # 2024/12/19	・千葉県、成田市他（印旛・香取海匝・山武長生夷隅等）の自治体と定期的に会合を設け、地域の現状や大学病院の役割を踏まえ必要な連携体制を構築するための方策を検討する。	・千葉県、成田市他（印旛・香取海匝・山武長生夷隅等）の自治体と定期的に会合を設け、地域の現状や大学病院の役割を踏まえ必要な連携体制を構築するための方策を検討する。	・千葉県、成田市他（印旛・香取海匝・山武長生夷隅等）の自治体と定期的に会合を設け、地域の現状や大学病院の役割を踏まえ必要な連携体制を構築するための方策を検討する。	・千葉県医療審議会の進める地域医療計画等を執行部会で情報共有を図る。	・千葉県医療審議会の進める地域医療計画等を執行部会で情報共有を図る。	・千葉県医療審議会の進める地域医療計画等を執行部会で情報共有を図る。	・千葉県医療審議会の進める地域医療計画等を執行部会で情報共有を図る。	・千葉県医療審議会の進める地域医療計画等を執行部会で情報共有を図る。				
⑧自院における医師の労働時間短縮の推進	①多職種連携によるタスク・シフト／シェア															
	1) 多職種連携によるタスク・シフト／シェア		・市民公開講座や地域医療連携懇談会等の対象診療科を幅広く設定し、地域のニーズに合わせた情報を提供することで連携を深める。	市民公開講座6回、糖尿病教室7回、成田市福祉祭り出張講座1回開催 地域医療連携懇談会の実績 ①形-皮膚14人②耳内-呼外17人③眼-糖内25人④血内-腎内21人	・地域の基幹病院として、地域医療機関との連携体制のさらなる強化を目指すために、登録医療機関制度等（登録医療機関：全体の8割登録を目指す）を活用して情報提供することで当院を選択しやすい環境を作る。	・地域の基幹病院として、地域医療機関との連携体制のさらなる強化を目指すために、登録医療機関制度等（登録医療機関：全体の8割登録を目指す）を活用して情報提供することで当院を選択しやすい環境を作る。	・地域の基幹病院として、地域医療機関との連携体制のさらなる強化を目指すために、登録医療機関制度等（登録医療機関：全体の8割登録を目指す）を活用して情報提供することで当院を選択しやすい環境を作る。	・市民公開講座や地域医療連携懇談会等の対象診療科を幅広く設定し、地域のニーズに合わせた情報を提供することで連携を深める。	・市民公開講座や地域医療連携懇談会等の対象診療科を幅広く設定し、地域のニーズに合わせた情報を提供することで連携を深める。	・市民公開講座や地域医療連携懇談会等の対象診療科を幅広く設定し、地域のニーズに合わせた情報を提供することで連携を深める。	・市民公開講座や地域医療連携懇談会等の対象診療科を幅広く設定し、地域のニーズに合わせた情報を提供することで連携を深める。	・市民公開講座や地域医療連携懇談会等の対象診療科を幅広く設定し、地域のニーズに合わせた情報を提供することで連携を深める。				

・各医療材料について適正価格のための棚卸しと価格交渉を行う。	・外科用縫合糸について、棚卸して品目の整理を進め、同時に価格交渉を行う。	医療材料委員会にて継続実施。	・棚卸して品目の整理を進め、同時に価格交渉を行う。		・棚卸して品目の整理を進め、同時に価格交渉を行う。		・棚卸して品目の整理を進め、同時に価格交渉を行う。		・棚卸して品目の整理を進め、同時に価格交渉を行う。		・棚卸して品目の整理を進め、同時に価格交渉を行う。
イ診療材料の適正な管理と使用											
・新規医療材料の採用を吟味する委員会が機能しており、初回使用の際には多職種で勉強する機会を設ける。	・医療資材委員会が機能しており、新規材料についても勉強会等を継続する。	医療材料委員会を中心に勉強会を継続する。	・医療資材委員会が機能しており、新規材料についても勉強会等を継続する。		・医療資材委員会が機能しており、新規材料についても勉強会等を継続する。		・医療資材委員会が機能しており、新規材料についても勉強会等を継続する。		・医療資材委員会が機能しており、新規材料についても勉強会等を継続する。		・医療資材委員会が機能しており、新規材料についても勉強会等を継続する。
ウ効果的かつ継続的な価格交渉											
・類似機能品目については、診療科間で統一し、担当事務部門で価格交渉を行う。	・医療材料の納入価格管理を適切に行いローコストオペレーションに取り組む。	医療材料委員会を中心にローコストオペレーションに取り組んでいる。	・医療材料の納入価格管理を適切に行いローコストオペレーションに取り組む。		・医療材料の納入価格管理を適切に行いローコストオペレーションに取り組む。		・医療材料の納入価格管理を適切に行いローコストオペレーションに取り組む。		・医療材料の納入価格管理を適切に行いローコストオペレーションに取り組む。		・医療材料の納入価格管理を適切に行いローコストオペレーションに取り組む。
3) その他支出の削減											
・各部署の在庫数量の見直しを行い、過剰在庫の抑制を図り適正な在庫数推進を図る。	・半期ごとの棚卸しや定期的な在庫数量のチェックにより適正在庫に努める。	半期ごとの棚卸を実施し、適正在庫に努めている。	・半期ごとの棚卸しや定期的な在庫数量のチェックにより適正在庫に努める。		・半期ごとの棚卸しや定期的な在庫数量のチェックにより適正在庫に努める。		・半期ごとの棚卸しや定期的な在庫数量のチェックにより適正在庫に努める。		・半期ごとの棚卸しや定期的な在庫数量のチェックにより適正在庫に努める。		・半期ごとの棚卸しや定期的な在庫数量のチェックにより適正在庫に努める。

④その他財務・経営改革に資する取組等										
・現場の医師による経営改善WGを立ち上げて、広くアイディアを吸い上げる仕組みを設ける。	・経営改善WGの立ち上げとアイディアを吸い上げる仕組みの整備を図る。	全診療科部長、病棟部長と経営改善、効率化について経営分析し、個別面談を実施した。	・吸い上げたアイディアを経営改善WGにて検討、活用できるアイディアの実現を推進する。		・吸い上げたアイディアを経営改善WGにて検討、活用できるアイディアの実現を推進する。		・吸い上げたアイディアを経営改善WGにて検討、活用できるアイディアの実現を推進する。		・吸い上げたアイディアを経営改善WGにて検討、活用できるアイディアの実現を推進する。	・吸い上げたアイディアを経営改善WGにて検討、活用できるアイディアの実現を推進する。
⑤改革プランの対象期間中の各年度の収支計画										
・収入増、人員採用・配置、医療資機材購入等の取組みを統合し、病院全体の収支計画にまとめ、結果を評価し、次年度以降の計画を見直すPDCAのサイクルを実施する。	令和5年度収支実績の確定を踏まえ、1月に作成した令和6年度収支計画を見直す。以降、毎月の実績を見ながら、収支予想を補正し、収支改善に必要な対策に展開する。	計画通り実施した。	令和6年度収支実績の確定を踏まえ、前年度に作成した令和7年度収支計画を見直す。以降、毎月の実績を見ながら、収支予想を補正し、収支改善に必要な対策に展開する。		令和7年度収支実績の確定を踏まえ、前年度に作成した令和8年度収支計画を見直す。以降、毎月の実績を見ながら、収支予想を補正し、収支改善に必要な対策に展開する。		令和8年度収支実績の確定を踏まえ、前年度に作成した令和9年度収支計画を見直す。以降、毎月の実績を見ながら、収支予想を補正し、収支改善に必要な対策に展開する。		令和9年度収支実績の確定を踏まえ、前年度に作成した令和10年度収支計画を見直す。以降、毎月の実績を見ながら、収支予想を補正し、収支改善に必要な対策に展開する。	令和10年度収支実績の確定を踏まえ、前年度に作成した令和11年度収支計画を見直す。以降、毎月の実績を見ながら、収支予想を補正し、収支改善に必要な対策に展開する。